

# 設楽ダムだより

第12号 2005.12

国土交通省中部地方整備局 〒441-1341  
 設楽ダム工事事務所 新城市杉山字大東 57  
<http://www.cbr.mlit.go.jp/shitara/>

	TEL	FAX
総務課	(0536)23-4331	(0536)23-4401
用地第一課 用地第二課	(0536)23-4402	(0536)23-4482
工務課 調査設計課	(0536)23-4387	(0536)23-4408

このたび十二月一日午後、中部地方整備局、愛知県、静岡県による共同記者会見が開かれました。

豊川水系は、政府により、水需要の見直しと供給の目標などを定める水資源開発基本計画(以下、「豊川水系フルプラン」)を策定することされており、平成二年に策定された豊川水系フルプランは現在見直しの検討が行われています。

このたび、国の関係地方支分部局及び関係県から「豊川水系における将来の水需要」や「設楽ダム」についての考え方が公表されました。

今後、国土交通省が設置する「国土審議会水資源開発分科会」において、この内容が審議され、豊川水系フルプランが改定されることとなります。

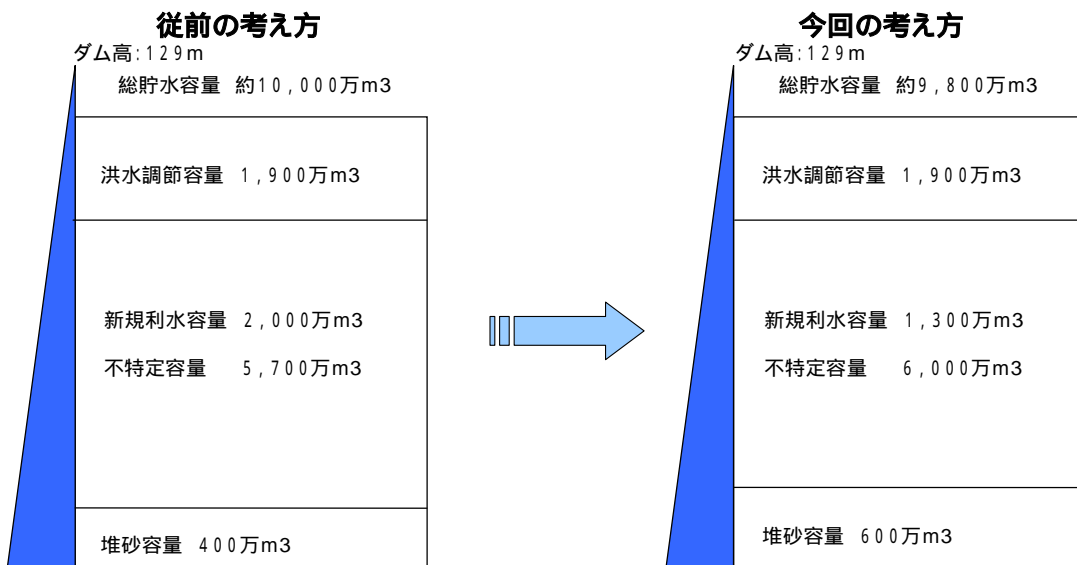
なお、この「豊川水系における将来の水需要」についての考え方を踏まえた設楽ダムへの新規利水容量、豊川における水利利用の安定性向上や流水の正常な機能の維持のための容量、洪水調節容量、堆砂容量を適正に確保するため、ダムの高さや位置などは変わらないと考えています。

現在、水没関係者の生活再建対策検討や用地調査、環境影響評価の手続き等を実施しており、引き続き早期完成に向けて事業を推進してまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

記者会見の資料等は中部地方整備局のホームページでもご覧いただけます。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/>

## ダム容量の配分イメージ



設楽ダムの高さは129m  
 今回の見直しによりダム容量は少し変更となりますが、ダムの高さは129mとなり変更はないと考えています。

# 新規利水容量見直しの概要

今回、愛知県など豊川の水に依存している東三河地域における平成二十七年年度時点の水道・工業・農業用水の想定需要の見直し案が公表されました。

これによれば、水道用水については近年の少雨化等の気象状況においても安定的に供給できるよう毎秒約0.2立方メートル（従来計画毎秒約0.8）を、また農業用水については新たな需要を賄うため毎秒約0.3立方メートル（変更なし）の合計毎秒約0.5立方メートル（従来計画毎秒約1.1）を、これまでに完成した利水施設に加えて、新たに設楽ダムにおいて確保する案が示されました。この結果、新規利水容量が2000万立方メートルから1300万立方メートルに減量になると考えています。

# 不特定容量見直しの概要

河川生態系の保全や既得利水への補給を行なう（流水の正常な機能を維持）ことにより、不特定多数の公共の利益を増進するためのダム容量を不特定容量と呼びます。今回、新規必要水量が減少することを前提として、不特定容量を300万立方メートル増量し、5700万立方メートルから6000万立方メートルとすることを考えました。この結果、豊川水系河川整備基本方針に流水の正常な機能を維持するための流量として定められている毎秒5立方メートルを牟呂松原頭首工下流地点で確保できます。（従来計画では毎秒3立方メートル）

また、大野頭首工地点でも毎秒1.3立方メートルを確保できます。これにより、夏季の水不足により発生しているアユのへい死等の被害を軽減する等、河川生態系の保全を図ることができま

大野頭首工下流の流量を回復 <清流の復活>



(2004年4月26日 大野頭首工放流量0.0m3/s)



(2004年4月29日 大野頭首工放流量1.3m3/s)

# 堆砂容量見直しの概要

## の概要

一般にダムでは百年間で堆積すると想定される土砂量をダム容量の一部（堆砂容量）として確保します。しかし、堆砂容量を大幅に超えるダムが発生したことから、平成十七年にダム堆砂量の推計基準の見直しがされました。設楽ダムもこの新しい基準を基に堆砂容量を見直します。

従来の設楽ダムの堆砂容量は、全国一律な経験式と近傍ダムの単純に経過年数で平均した実績堆砂量の両者から推定した400万立方メートルとしていました。

一方、今回の見直しでは、ダム予定地の地域性を重視して近傍にある地質・気候特性が類似したダムを選定し、選定したダムの実績堆砂量を確率処理することにより平均年堆砂量の信頼性の向上を図ることになりました。また、ダムに流入する土砂は、地形、地質、気候等が大きく関係するため、これらの要因も考慮することとなりました。この方法で推定すると堆砂容量は600万立方メートルとなります。

平成17年12月1日の関係機関による打ち合わせを踏まえた中部地方整備局の設楽ダムの考え方

項目		現行	対応方針案	変更概要
総貯水容量		約1億 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	約9,800万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	
洪水調節容量		1,900万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	1,900万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	
新規利水容量		2,000万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	1,300万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	新規需要の見直しによる減量
不特定容量		5,700万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	6,000万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	河川環境を保全する流量確保のための増量
堆砂容量		400万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	600万 <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	流域の実態を踏まえた新たなダム堆砂量推計方法による再検討
新規 利水	農水	約0.3m <sup>3</sup> /s	約0.3m <sup>3</sup> /s	
	上水	約0.8m <sup>3</sup> /s	約0.2m <sup>3</sup> /s	